

【様式1】

団体名 渡嘉敷村立阿波連小学校	連絡先 TEL: 098-987-2134 Eメール: aharenscho@oki-tokashiki.jp
---------------------------	--

1 実践事項 (②)

タイトル: 「 ガイド学習を活用した 対話と協同的な学び 」

2 実践内容

(1) めざす授業像の共有

- ・「児童一人ひとりの学びを大切にされた対話や協同的な学びのある授業づくり」を目指し、低学年から聞く姿勢を重視した児童同士が聴き合い学び合う授業展開の充実に努めている。

(2) ガイド学習の研究と充実

- ・完全複式学級という特性を生かしながら、児童主体となるガイド学習を軸とした授業展開の研究に努めている。(琉球大学教育学部: 山口剛史教授を招聘)

ガイド学習とは、教師が他学年を指導している時間(間接指導時)の効率化と学習の充実に図るために考えられた小集団学習形態で、学習リーダー(ガイド)が教師と共有する学習計画のもと、リードしながら学習を進める方法のこと。

- ・各学年の発達段階に応じて、ガイド学習のめあてを作成・活用し、系統性のある学習活動を目指している。

3 説明資料(写真、グラフ、図、表など)



←1年生のガイド学習

ガイド学習のめあて→



高学年のガイド学習→

5. 6年生

フォロワー

- ・他の人の意見を聴いた後に自分との「同じところ」や「違うところ」(相違点)について訊くこと(質問すること)ができる。
- ・他の人の意見の理由にこだわる事ができる。
- ・ガイドが困っているときにアドバイスすることができる。

ガイド

- ・みんなで話あった意見を整理し、互いの相違点についての話し合いを進めることができる。
- ・45分間の見直しをもって課題を解く時間や話し合いを進めることができる。
- ・解決できなかった話し合いの内容を整理し、戻ってきた教師に伝えることができる。

4 成果

- ガイド役とフォロワー役(ガイドではない児童)の児童がそれぞれの役割を理解し、課題に対して全員で協力し合い、主体的に取り組んでいる。
- 教師がファシリテーター役を意識するようになり、個のつまずきを以前より見とれるようになった。また、児童同士の対話が増え、考えを深めるきっかけを多く作れるようになった。
- 児童の学び合いの時間を確保することや問い返しの発問をより意識するようになった。

5 課題

- 児童の考えを深める発問の工夫や、間接指導時における児童の対話やつぶやきを可視化する方法。
- 1つの学年から他の学年へ直接指導を移るタイミング(「わたり」のタイミング)。
- 高学年は、他の児童の発言をより吟味したり、学びを深めたりする対話が弱くなるがあった。